

## 「こんにちは！知事です（宇和島地方局）」

日 時 平成19年10月9日（火）10:00～12:00

場 所 宇和島地方局(宇和島市)

今回は、宇和島市の方々からご意見をお伺いしました。

### 知事との意見交換にご参加いただいた方々

	氏 名		氏 名
1	赤松 洋子	11	藤田 喜代子
2	大久保 洋志	12	松浦 良樹
3	門田 知代子	13	松本 由紀美
4	鎌江 千鶴	14	森藤 裕子
5	黒田 正幸	15	安岡 一
6	黒田 美知子	16	安田 敏幸
7	酒井 淑子	17	山本 定彦
8	二宮 雅吏		
9	濱田 充子		
10	廣澤 初志		

傍聴された方 54名

## 意見交換の概要

### マグロ養殖等に着目を

宇和島は、海と山を大事にしながら、海と山に教えられながら育ってきたと思っている。近畿大学ではマグロの生態を研究して、大学の試験場で上手くやれているという。水産でも農林でも働く人はいくらでも雇えるのだから、その辺に着目して欲しい。

#### (知事)

マグロ養殖は今、宇和島でも取り組んでいる方がいる。様々な漁獲制限がある中で、養殖は国際間の地域協定とかに関りなくできるから、これから有望な分野だろうと思う。問題は現実に成功させるまで持ちこたえる資金をどうつないでいくかだと思う。

### じゃこ天の原材料の確保

全国のほとんどの蒲鉾業者が海外の冷凍すり身を使用している中で、宇和島蒲鉾協同組合は近海の小魚にこだわり、全国でも貴重な存在だと思う。愛媛県地場産業地域ブランド育成支援事業を行っており、「宇和島じゃこ天」の地域団体商標が登録査定された。宇和島じゃこ天の知名度とともに、業界の売上も上がってくると推測するが、原材料の小魚の確保が望まれる。トロール船が存続の危機に見舞われており、原材料の危機感を持っている。県はその点を頭に入れて、良い提案があれば指導願いたい。

### 商店街活性化のため支所に休憩所を設置

三間町で食料品小売業を営んでいるが、商店街が過疎化している。商店街に来るほとんどの人が車に乗れない人なので、支所を活用して、休憩できる憩いの場所を設置したい。ベンチと屋根を作り休憩できる場所があれば、輝く商店街ができると思う。

#### (知事)

県は商店街の活性化に取り組んでいる。従来はアーケード等のハード面の整備だったが、今はソフト面のアイデアというか、空き店舗の活用等だろうと思う。具体的には市町の行政分野で、県はアドバイスや取り組みの支援だろうと思う。今の話は、成功すれば他の地域にも奨励できる有望な考え方なので検討したい。

#### [対応]

支所の空き地活用を含めた地元商店街の方々の創意工夫を凝らした意欲的な取り組みについて、地元市を通じて提案いただければ、可能な範囲のお手伝いをしたい。

### じゃこ天はPR不足

じゃこ天は他所のもの比べて日本一だと思うが、残念ながらまだPRが足りない。じゃこ天という名前に統一して欲しい。また、東京のJRに乗るといっばいチラシがあるが、四国のPRは一つもない。山手線や東海道線にPRを出せないか、東京から1%でも愛媛に人が来たらと思う。

## (知事)

じゃこ天のネームバリューにはこんな記憶がある。33年前に高校の後輩が西新宿で小料理屋を出したが、じゃこ天を品書きに「愛媛のさつま揚げ」としていた。当時はそれくらい名前が知られていなかった。今度、地域団体商標も取られたし、どんどん有名になると思う。

## 大学の設置

働く場所を作るという発想も勿論素敵だが、大学を作るといのはどうか。男女共学の大きな有名大学ができれば、いいことがいっぱいだろうと思う。東京の会社か大学が分からないようなビルで勉強するより、愛媛の自然たっぷりの静かな場所で勉強させてあげる方が、日本の将来にとってもいいと思う。

## (知事)

大学の話は、いろんな方からお話を聞くが大変なことである。何百億円というお金を誰が出すのか、土地建物、その他諸条件整備、教官集めから、大学設置の必要性、また、卒業時の就職の世話まであり、最後には計画がつぶれてしまう。財政状況が好転した将来は考えられても、今の時点では難しい。

## 漁協の製氷設備の整備支援

宇和海の魚は大変おいしいと評判がよい。魚は鮮度が一番だが、私達の漁協の、魚に鮮度をつけるための製氷設備が老朽化して、本来の製造能力の6、7割くらいしか動かない状況になっている。製氷設備は高額で、漁協だけではなかなか対処できないので、県の力を借りたい。

## (産業経済部長)

今は答えを持っていないが、本課に設備の補助制度について後日確認したい。

## [対応]

漁協が製氷施設を新設する場合、一定の補助要件を満たせば、県の補助事業である沿岸漁業構造改善事業を利用することが可能である。

この事業は例年5月頃に市町を通じて要望を照会し、計画内容等を審査した後、補助要件を満たせば、翌年度に事業を実施することとなる。

## 地域格差対策をふるさと納税で

最近、田舎と中心地の格差をすごく感じている。それを「ふるさと納税」でなんとか埋めることができないか。安心して暮らすためには、納税者である若者がいなければ、成り立っていかないので、手を挙げる人だけの「ふるさと納税」ではなく、バランスのいい、皆が平均的に納税してもらえるようなものをつくって欲しい。

## (知事)

「ふるさと納税」は全国知事会で大激論になり、ふるさと納税派が圧倒的に多いが、東京、神奈川、大阪、愛知の4都府県知事が猛反対した。自分達の税収が減るのだから当然だろう

と思う。政府の第三者委員会が出した叩き台は、住民税の1割をふるさとに寄附した場合には、その分を住民税から控除するもので、正直たった1割というのは効果が薄い面があるが、突破口として意味があると思う。

### 宇和島道路の供用開始時期は

津島で今関心があるのは宇和島道路で、宇和島側では活発に工事されているが、供用開始の時期はいつ頃か。

(知事)

津島までの高速道路は、国が示している考え方は、平成20年代前半と言われている。

(建設部長)

宇和島南から高田までは21年度、三間から宇和島までは23年度、高田から岩松までは20年代の前半で計画されている。

### 南予の地域活性化

南予の商売は、一次産業の低迷と、大型資本店に押されて死活問題になっている。緊縮財政で公共事業も見込まれない時代で、地域活性化の気力も失われつつある。金の無いときは知恵を出せということで、やはり人を育てることが大事だと思う。人材育成やリーダー養成で、異業種交流のきっかけになるような手助けをして欲しい。

(産業経済部長)

地域活性化について、津島町の民間団体も「てんやわんや王国」や「しらうお」の産業祭り、松尾峠の遍路道整備等に取り組み、津島に人に来て貰うよう一生懸命努力しているので、そうした活動が活発になればいいなと考えている。

### 経営方法や支援策の明示

地方分権とは実力のある町は繁栄し、そうでない町は衰退していくことかと思う。ある農家から、松山や県外の施設園芸はすごく有利な条件でできるという話があったが、南予ではそういう情報が乏しく、そこから生まれる格差もあるかもしれない。上手く経営する方法や支援策が分かりやすいものか確認して欲しい。

(知事)

起業情報の話だと思うが、南予の地域密着型ビジネス支援事業で、宇和島地方局にコーディネーターを配置して、起業への支援で南予一円を回っている。そういう者とアクセスするチャンスが無かったのかなと思う。

### 病院の情報公開

生活習慣病対策をする病院や事業所に対して補助金を出すと聞いたが、補助を受けて成果を出している病院や事業所を公表するなど、すばらしい病院、また事業というのを肌で感じるようにした方がいいのではないか。

### (健康福祉環境部長)

生活習慣病に限らず、医療計画とか医療改革の関係で、病院の情報を外部の方が見ることができるよう情報公開していくという流れができつつあると聞いている。過剰にすると宣伝広告になるが、ある程度病院の情報を開示できつつあると聞いている。

### 小中学校の部活動奨励の対応

吉田町では子供が部活動を選べない。県も国体が予定されているが、へき地は素晴らしい選手であっても受け皿がなくなっている。何かいい施策があれば、選手の育成をもっと上手くやっていけるのではないか。中学校も無くなった部活が多く非常に残念で、中学校の広域的なつながりで上手くカバーするとかの対応を聞きたい。

### (知事)

平成29年の国体に向けて、今の部活動の状況を県としても大変心配している。来年から学校での部活動、特に高校では種目ごとに重点校指定を始めるが、児童生徒数が減少し、指導者が不足していく結果として、お話のような状況になっていると思う。10年間を目指した強化の意味も含めて、今の部活動の奨励に努力していくよう、教育委員会によく申し入れておきたい。

### [対応]

少子化による生徒減少により、特に、高校に比べて校区の狭い中学校では、単独校でチームを編成することが困難な学校が全国的に増えてきており、全国中学校体育連盟では、複数校による合同チームの全国大会出場を認めているところである。

こうした仕組みをしっかりと周知して、子どもたちがスポーツに取り組みやすい環境が整えられるように対応していきたい。

### 保養センターの今後

保養センターの閉鎖という話を聞き、大変驚いている。古くは宇和島城、新しくは保養センターの建物は、宇和島の景観でもあり、憩いの場にもなっている。今後どうなるのか、何とか有効利用する方法はないのか、県の考えを聞きたい。

### (知事)

厚生労働省関係の手を広げた施設を、全部整理縮小していくという方向性の中で、売却の方向へ進んでいると思う。景観的な意味でどうするのかは、買い取った方の問題だが、市としてどの程度のチェックができるのか分からないが、申し入れはすべきだろうと思う。

### 市立病院の保険医療機関指定取消し問題

市立病院の保険医療機関指定のことだが、知事から体を張って対処していきたいという力強い言葉を聞いたが、現在、どのような状況になっているのか。

### (知事)

保険医療機関指定取消しの話は、大変微妙な段階に来ていると思う。私がああいう発言を

したのは、特に宇和島市立病院が二次救急の指定病院であり、がんの指定病院でもあり、さらに周産期母子医療センターとして指定している、まさに南予地域全体の地域医療を担う核の存在だから、罪と役割の秤の重さを考えて欲しいという意味からである。公立病院だから、そんなことはないと思うが、静岡県の市立病院が指定取消しになった前例があり、宇和島市立病院もその可能性があるという点で大変心配している。万万が一そのようなことにならないように、あらゆる手段で対抗していきたい。

### 市立宇和島病院に県から医師の派遣を

南予の救急医療は、愛南町から西予市までの広範囲の医療圏を確保しており、救急隊の出勤の増加とか、距離の拡大とか、ほとんどが市立宇和島病院に頼っている問題がある。このため、市立病院の医師の疲労が心配されており、県から市立病院にも医師の派遣が必要かと思う。あと、生活習慣病のことだが、若い人には適応があるが、80歳、90歳の人に生活習慣病対策を進めるのは難しい面があるので考慮して欲しい。

#### (知事)

今、医師不足を前提として、ドクターバンクやドクタープール制度を考えているが、ドクタープール制度は県病院と医師が不足している小さい地域の病院や診療所との連携を考慮しており、市立宇和島病院のような地域の大きな病院の医師の面倒を見る余力は県には無いので、今のところ技術的には難しいと思う。

### みかん研究所の研究員の増員

みかん研究所の研究員について、11名くらい確保して欲しいという意見があったが、今のところ7名である。増員計画はあるのか。各地の試験研究機関の見直しをしているようだが、そういった厳しい中で増員ができるのか心配している。みかん産業の活性化のために是非増員について検討して欲しい。

#### (知事)

正直、今、県では毎年の三百億円以上の財源不足への対応のため、有力な原資の一つとして、定員の削減と給与カットという臨時の荒業をやっており、客観的に見て増員は極めて厳しいと思う。ただ、試験研究機関の改編の中で、果樹試験場本体の柑橘部門と、みかん研究所の人数の再配分を含めて見直しており、その結果としての増員はありうる。ただ、純粋な増員は今の状況の中では極めて厳しい。

### J A えひめ南と宇和青果の合併への協力

平成8年だったか、J A えひめ南と宇和青果の合併が寸前までいって破談状態になった。新組合長は、合併は避けて通れないと研究会をもってやっているが、是非この合併に協力して欲しい。課題の一つに、宇和青果が20数億の加工事業をやっているが、これが常に赤字決算で、赤字事業を持ち込むことに拒否反応があるようだ。加工事業を廃止したいが、二百名近い雇用を削いでしまうことと、膨大な欠損が出ることを心配しているようだ。専

専門的な知識がないと大変難しいので、県の支援を願う。

#### (産業経済部長)

宇和青果の加工部門の不振の話を聞いて、加工施設を視察させてもらった。施設は若干老朽化しているようだが、将来的に加工部門は充実すべきではないかと思う。特にJAえひめ南との合併が成ると、その辺も大いに前向きで検討する必要があると思った。販路も今後前向きに検討する必要があると感じたが、御意見を私どもの担当へ伝え、前向きに取り上げていきたい。

#### 真珠養殖現場への資金面の支援

県も真珠産業に力を入れてもらい、宇和島の地域ブランド推進事業を実施してもらっているが、いい真珠がたくさんできてこそ、いいデザインがプラスされて、販路が広がっていくと思うので、生産現場である真珠養殖の方へ、資金面の支援等を願いたい。もし既に支援策があるのなら教えて欲しい。

#### (知事)

真珠の問題で県が進めているのは、全日空と連携して、宇和島の加工品の販路を拡大して全国展開しようというもの。資金の支援では融資の方法があり、いろんな形で保証を与えて融資ができる制度がある。また、軌道に乗るまでのつなぎをする制度もある。何かをやるうとする時に、どれだけの助けを得られるかは、地域ぐるみで頑張っていくことに関して、市も県も全面的に協力したい。

#### 観光資源のアピール

他県によく出かけるが、宇和島は他県に比べて観光資源をアピールするのが少し足りないと思う。県民の一人一人の気持ちや心構えが足りない点があるかもしれないが、知事もアピールして欲しい。

#### (知事)

東京の経済人に意見を聞きたいと、東京で会合をした時に、他の県は「うちの県には何かがある」と、東京に来てなりふりかまわず宣伝するが、愛媛県はとても控え目で、東京の人は愛媛のことをほとんど知らないと言われた。県民性だから、なりふりかまわずは難しいだろうが、あらゆる形で情報発信しなければならない時代だから、インターネットで控え目な人でもホームページやブログに立ち上げることはできると期待している。いずれにしてもパフォーマンスが必要だと思っている。

#### 水産学部の創設

宇和島には愛媛短大があり、外国からの留学生に喜ばれている。水産高校について、愛媛大学に水産学部がないが、他所に出なくてもいいように、水産学部を作って欲しい。水産大学を作るのは大変だから、水産試験場とタイアップして、他所の大学から一人二人先生に来てもらい、講義してもらえば県のお金は要らない。

## (知事)

以前、愛媛大学農学部百周年記念行事で、「これからは、水産学部を考えるべきじゃないか。」と申し上げた。間もなく水産学の教授が一人でき、水産学専攻に向かっていくと思う。水産試験場には優秀な研究員やスタッフが揃っており、愛媛大学と水産試験場が連携した水産学科、あるいは水産学部センターは可能性がある。愛媛大学が来年の四月から旧西海町庁舎に水産学研究センターを置くのも一つのきっかけになる。これから盛り上げていきたい。

## 知事にはもっと南予へ

入学式や運動会があっても松山の方のことなので、もっと知事にテレビ局を引き連れて南予に足しげく通ってもらい、南予のPRをして欲しい。

## (知事)

体がいくつも欲しいところだが、やはり遠過ぎる。高速道路が一日も早く開通すれば、行動範囲も広がると思う。年齢は73歳で全国で三番目に年寄りの知事になり、もう少し若返らないといけないと思うが、期待に沿えるよう努力する。

## 福祉問題への考え

南予地方も高齢化が進み、既に高齢化率は30%になっており、三人に一人はお年寄りという状態である。地域格差とよく聞くと、福祉業界においても、漠然とではあるが、都市部と農村部、東中南予と、いろいろと感じるところはある。今日は福祉の問題があまり話題にならなかったが、知事がどう考えているのか聞かせて欲しい。

## (知事)

社会の中で、困っている人が存在しないで済むのが福祉社会だと思うが、福祉にはどうしても財源が必要で、近年は社会保障経費の伸びのために借金が毎年何十兆円と増えている。高負担による高福祉は可能だと思うが、負担は低くて福祉は上げるというのは不可能に近いと思う。残されたわずかな方法は、地域社会の助け合いしかない。制度に頼らず、家族や地域あるいは県全体で住民が助け合う分野が広がれば、結果として福祉社会を形成することになる。それが私自身が掲げている「愛と心のネットワークづくり」です。地域で助け合っている理想の姿をモデル発表し、全県下に広がっていければと思っている。

## 認知症予防の塾

私達は、四国で初めての認知症予防の塾をやっている。教材を使うため1日1000円ぐらいの有料である点が欠点だが、市長の理解を得て、障害児センターを開放してもらい活動している。寝たきりになると、お金が1人年間600万円ぐらいいるということで、できるだけそういう老人を無くそうという信念の基でやっている。

## (知事)

そういう活動があらゆる分野で展開されると、素晴らしい社会になると期待している。平成12年に介護保険制度がスタートしたが、初年度の県内の介護給付費は500億円だった



た。1年経ったら600億円になり、2年経つと700億円になった。制度だから利用するのは当然の権利だが、あまりにも個人が責任を放棄し、介護保険に押し付けた結果かもしれない。可能な限り介護給付の負担を減らす方向で考えていかないと、この国家社会が危ないと感じた。